

国家資格・茶藝師の流れ

1999年	茶文化学を基礎とする「茶藝師」国家資格入り
2001年 3月	労働社会保障部認可・初の茶藝師試験が江西省にて開催
2007年 6月	大高中国茶学校が国家資格認定校に認定
2016年 8月	「茶藝師」国家資格の方向性の内部通達がある
2016年10月	一般社団法人日本中国茶文化交流協会設立
2016年12月	「茶藝師」国家資格から除外される
2017年 2月	「茶藝師」中国餐飲服務人員分類(別枠)にて国家資格となる

茶藝師・品鑑師・茶療師
の資格認定を設ける

=以前と異なる管轄
(母体)で再スタート。

過去の資格と新しい資格の違い

2016年12月、国家資格「茶藝師」の分類が変わりました。一番の大きな違いは母体が異なる点です。新たに分類された「中国餐飲服務人員」では、「茶藝師」はレストラン業界のサービス業従事者に対する資格となります。この20年近くで多くの国家資格「茶藝師」が輩出されました。その大半はレストラン、ホテル、茶藝館などでのサービスに従事しています。「茶藝師」がサービス業管轄として分類・移動となったことには、このような状況が経緯の一つにあると言われております。

過去の国家資格では、中国の4年制農業大学や短大に設置された中国茶専攻で、「茶文化学」を基礎とする茶藝教育を経て、茶藝講師として活躍する人材育成を行ってまいりました。しかし、今回の「茶文化学」から「サービス業」への分類・移動により、今後の茶藝師教育では、接客をメインとする「おもてなし」等に重点が置かれることになりました。

一般社団法人 日本中国茶文化交流協会の設立趣旨

当校は2007年6月より2016年10月まで、国家試験「茶藝師」の試験校として900名以上の受講者、378名の受験者を輩出してまいりました。茶文化学を基礎に、茶藝師教育のゴールとして行われていた茶藝師試験合格を目指し、茶藝師講師の育成を重んじた活動に9年間携わりました。

しかし、2016年12月、国家資格である茶藝師の取消が発表されました。そのとき、「茶藝師之父」と呼ばれる恩師お二方の志を継ぐべく、日本からの活動と働きかけを決意して設立したのが、この「一般社団法人日本中国茶文化交流協会」です。本協会は中国が誇る茶藝師教育のかたちをそのままに、社団法人の認定資格である「茶藝師」「品鑑師」「茶療師」の講師育成をゴールにしております。

一般社団法人 日本中国茶文化交流協会の主な活動・社会的役割

私たちは「講師が日本で活躍するために何が必要なのか」を常に考えています。

【中国】では以下のように、講師たちの随時サポート、全面的なバックアップをおこなう態勢を整えております。

- ・安心安全な中国茶を常に卸価格で仕入れられるネットショップの運営
- ・希少価値の高い茶葉やおすすめ茶葉の紹介
- ・お茶会開催の支援
- ・講師用の補講講座
- ・中国での産地や現状などの情報提供
- ・各種資料作成
- ・講師限定クリアランスセール

【日本】でも、講座、勉強会、エコ茶会の出店、意見交換の食事会、認定試験などを年に数回開催し、中国や本部との接点を作りながら、講師同士の横のつながりを大切にしています。カルチャーセンターやカフェなどで活躍する講師たちの支援(名刺・認定講師お茶会資料や茶葉・ホームページ等)を通じて、講師の方々が活躍しやすいプラットフォーム作り専念しています。

協会方針: 学びをゴールにするのではなく、学んだものをいかに自分の形や色にしていくかを大切にしています。そしてそれらを、自身が講師となる講座や体験を通じて、他の方のキャリアアップにつなげていただくことを目指しています。

国家資格「茶藝師」試験は実施しません

2017年2月の中国政府による発表で、国家資格の「茶藝師」はサービス業の色濃い餐飲服務人員分類に移行して再スタートすることになりました。しかし、「大高中国茶学校」では茶文化学を基礎とした「一般社団法人日本中国茶文化交流協会」が認定する「茶藝師」講師育成をおこなうことを発表いたします。

大変申し訳ございませんが、弊社では、国家資格としての「茶藝師」試験を開催いたしません。ご理解のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

